

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# 地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第23号

平成27年11月3日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
編集：専務理事 佐藤 正 俊  
住所：〒160-0023  
東京都新宿区西新宿1-9-1  
TEL:03-3349-6194  
FAX:03-3345-6388  
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



獅子頭を中央に東西に整列し、踊りながら拝殿まで進む「渡り拍子」の風景

滋賀県米原市大野木「大野木豊年太鼓踊保存会」の雨乞い踊り奉納  
(平成27年度助成先)

## 平成二十八年度 「地域の伝統文化の継承・発展活動」 に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。平成二十八年度で二十六回目をむかえます。これまでに行なった助成は、累計千五十一件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。平成二十八年度も以下の内容により公募を行います。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「平成二十八年度助成申込要領」をご覧ください。なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

### 『申込要領の概要』

〔助成対象〕  
「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

### 〔助成の条件〕

平成二十八年度（平成二十九年三月まで）に後継者育成を目的とする諸費用（道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など）の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

### 〔申込手続〕

- 一、提出書類  
〔申込書〕（所定用紙）  
〔推薦書〕（所定用紙）  
〔活動状況がわかる写真〕  
〔直近の収支決算書（写）〕

〔参考資料〕等  
二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

### 〔手続日程〕

- 一、申込期限  
平成二十八年一月二十九日（金）
- 二、結果発表  
平成二十八年三月下旬（予定）

### 〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

### 〔助成金額〕

- 一、民俗芸能への助成は、一件につき七〇万円が限度
- 二、民俗技術への助成は、一件につき四〇万円が限度

### 〔伝統文化分野選考委員〕

- 委員長 岩井 宏賢  
（帝塚山大学名誉教授）
  - 委員 天野 武  
（儀礼文化学会名誉会員）
  - 委員 小島 美子  
（国立歴史民俗博物館名誉教授）
  - 委員 田中 宣一  
（成城大学名誉教授）
  - 委員 田村 善次郎  
（武蔵野美術大学名誉教授）
  - 委員 西角 井 正大  
（国立劇場おきなわ運営財団理事）
  - 委員 星野 紘  
（独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムディレクター）
  - 委員 渡辺 行信  
（当財団評議員）
- （敬称略）

II 特別寄稿 II

伝統文化の中の火の継承と更新

成城大学名誉教授

田中 宣一

(当財団伝統文化分野選考委員)

田中宣一先生略歴



福井県出身。国学院大学大学院文学研究科博士課程修了。成城大学文学部教授を経て、現在、成城大学名誉教授。祭りや年中行事をはじめ、近現代の民俗の変化について研究。主な著書に、『年中行事の研究』『祀りを乞う神々』『徳山村民俗誌―ダム水没地域社会の解体と再生』『供養の心と願掛けのかたち』『名づけの民俗学』、編著・共編著に、『暮らしの革命―戦後農村の生活改善事業と新生活運動』『食の昭和 문화史』『三省堂年中行事事典』『海と島のくらし』など多数。

火は自然現象であるが、火の使用は文化である。

人類は煮炊きや明かりとり、採暖のために長きにわたって火を使用してきたが、こうした日常卑近の利用とは別に、宗教上力あるものとしてさまざまな行事にも活用してきた。

オリンピックのメインスタジアムに火を高く燃やしつづけるのは何のためか。日常実用のためであるはずはない。ギリシアにおいて太陽光から採火し、はるばるトーチリレーをつづけて、そこに燃やしつづける意味は……

わが国の伝統文化にも、火が重要な意味を持つ祭り・行事は実に多い。当然財団が助成したものにも多い。その一つ、山形県鶴岡市の羽黒山・松例祭(しょうれいさい)は、秋から始まる複雑な行事であるが、そのなかで大晦日夜・新春早晩に神社境内で二組に分かれ競って大松明を曳き燃やすのは、欠かせない要素である。この火によって祭りはクライマックスを迎えることになる。

年間では火が重要な役割をはたす行事は、正月と盆に集中しているといつてもよい。かつて囲炉裡を用いていたころ、大



羽黒山松例祭の「焼き払われる大松明」

晦日には大きな丸太を燻べ、一晩中燃やしつづける地域が少なくなかった。この丸太は世継櫓(よつぎぼた)などと呼ばれ、人々は年を越えて火の継承をはかるうとしていたのである。小正月には、左義長・どんどん焼きなどといって、正月の年神飾りや門松を持ち寄り、地域単位で大きく積み上げて燃やす火祭りが、現在でも広く行なわれている。この火に乗って年神が昇っていくとか、この火で身体をあぶると一年間は風邪をひかないなどといって、聖なる火としての効用が信じられていたのである。

正月と盆は構造的に意外に似ており、盆には先祖霊を迎えるために火を焚き、送るためにも焚かれていた。迎え火として門口で焚いたり、墓地で焚いてその火を持ち帰って先祖迎える。

送る場合には広場に高い柱を立ててその頂に籠などを固定させ、下から皆で競って籠に火を投げ入れる柱松明行事や、京都の大文字焼きに代表されるように大火を焚くことが多く、地域の伝統文化として継承されているものも少なくない。助成の対象となった青森県黒石市の大川原の火流しも、その一つだといえる。



大河原の火流しの「火の舟」

神社の祭りにも盛んに用いられている。山梨県の富士北麓の北口本宮浅間神社を中心とする吉田の火祭りや、和歌山県の熊野速玉(くまのはやたま)大社の熊野御燈祭(くまのおとうまつり)、熊本県の阿蘇神社「卯の日祭り」の火振り神事などは、かつて修験の徒が関与したかと思われる勇壮なもので、テレビでもよく放映されるので存じの方も多いであろう。

いずれも火の神聖な力が信じられ、神霊の送迎や悪霊の攘却、穢れの祓除、ひいては五穀豊穡や地域の安寧を願って燃やされているのである。

二

ところで聖なる火への意識は、祈願に専心する祭り・行事そのとき限りのものであるのか。よくみてみると、そこには火の継承相続と更新という問題も潜んでいることがわかる。

先に述べた大晦日の世継櫓のように、継承を心がけ炉の火を何世代にもわたって絶やしたことがないという話は、かつては各地にあった。そのなかで岐阜県明方村(現郡上市)の例は圧倒的で、鎌倉時代に下総国(現千葉県)

から一族あげて移住してきたという旧家千葉家の火は、それ以来七〇〇年以上にわたり、平成の現在でもそのときの火種を絶やさずに守りつづけているのだという。そのため最近では、結婚式のキャンドルサービス火の火としても人気がでてきているらしい。

かつて火を熾（おこ）すのは確かに大変だったから絶やさなかったということでもあるが、火の継承にはさらに深い意味があるように思われる。

明治初期の廃仏毀釈までは、山岳霊場で大楯を焚き継ぐことは珍しくなかった（五来重『仏教と民俗』）。有名なのは、平安時代以来燃えつづけているとされる比叡山延暦寺根本中堂の不滅の法燈である。中世末の織田信長の焼き討ちにあつていつたんは絶えたが、その後、芭蕉の「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」の句で知られる山形県の立石寺（天台宗）の不滅の火を移してきて、今に継がれているのだという。立石寺の火そのものが開基のときに延暦寺が分与した火だとされているので、そこから移した根本中堂の不滅の火は、実は絶えていないと解されているわけである。立石寺の火はかつては奥の院の常火堂で燃やしつづけていたが、現在では金堂に「一千百年不滅の法燈」として灯されつづけて、誰でも拝見できる。まさに法統が法燈によって継承相統されているのだといえよう。

その反対に三重県尾鷲市の漁村・九鬼町では、昭和十年ごろまでは、正月や祭り・節供などの前日には竈の火や灰をすべて掻き出し、鍋釜の底の煤まできれいに落として、新しい火でハレの日を迎えるという徹底した火替えをしていた。その上、不漁がつづいたり不幸の家が出たりすると、現在の火がよくないと考え、「火替えさんせよ」

と触れ歩く役の人まで選んで、いっせいに火の更新をはかっていたのである。このように正月に火を改めたり、不幸のあった家や一族が火替えする例も、かつては珍しくなかった。

京都市八坂神社（いわゆる祇園社）の大晦日の白朮（おけら）祭りをみてみよう。白朮は一種の菓草で、神社では新年に向け鑽火（きりび）用の杵と臼で火を熾して神前に灯し、さまざまに吉凶判断をすることも、白朮を加えて燈籠でも燃やしておく。すると信者たちがその聖火を竹繩に移して持ち帰る（竹繩の火は消えにくい）、神棚に点じて除災招福を祈ったり、新年の火としてそれでお茶を沸かしたり、雑煮を作るというものである。

実は先の松例祭でも、クライマックスの松明行事のあと火打石と火打金とで新たに火を熾し、今後一年間の灯明用としての火である。同じく財団が助成した鳥取市・賀露神社の麒麟（きりん）獅子舞でも、青年たちが棒で板を錐揉みして発火させ、その火を祭りの聖火としている。

神社において新年や祭りに火を鑽り出したたり、その火を家々で受けて浄ら



賀露神社麒麟獅子舞の素手で板の上で棒を揉み揉み採火する「もみ火神事」

かな火として用いる例は珍しくないのである。

### 三

次に伝統文化中の伝統文化である、出雲大社の近世までの火継ぎ神事をみてみよう。出雲の国造（こくそう）交代時に、古代以来継承されているとされる最重要神事である（平井直房『出雲国造火継ぎ神事の研究』）。

国造（くにのみやつこ）とは古代の国々の統治者であり、律令政治においては祭祀の主担当者であった。この役職は徐々になくなっていくのだが、出雲国では出雲大社（杵築大社）にかかわる国造（出雲では「こくそう」という）として現代にも継承されている。

出雲大社は大国主大神を祭神とし、天照大神の第二子である天穗日命（あめのほひのみこと）の子孫が国造としてその祭祀を司り、ときには神と一体の存在と考えられることもあった。そして国造の生命は、古代以来、聖火（浄火）の継承をとおして絶えることなくつづいているのだと信じられているのである。

とはいえ、現身（うつしみ）の国造が死を免れることはできない。そこをどのように考えてきたのであろうか。火継ぎ神事は何日にもおよぶ複雑な神事であるが、核心だけ簡単にみてみよう。

現国造が死去すると、次の国造予定者はその死に一切関わることも悲しみさえ示さず（即ち死を認めず）に、家の宝器である燧臼（ひうちうす）と燧杵（ひうちぎね）を携行して、出雲大社に縁の深い神魂（かもす）神社に赴くのである（行程は約半日）。そして神魂神社の本殿において、携行した燧臼に燧杵を錐揉みして発火させ、秘歌が唱えられたりつづけるなか、その火で炊

いた御飯を神に献じ、自らもいただくというものである。即ち、伝来の宝器で聖火を熾し、その御飯を身体に入れることによって代々の国造の生命が継承され、ここに新国造が誕生したことになると考えてきたのである。

無事に火継ぎのなされたことは直ちに国造の死が公認され、遺体は門から出されて葬儀にかかるのである。同時に国造家では、国造が日常的に用いていた火所の火および関係用具が破却更新されるのであった（国造は平素でも他人と同じ火で煮炊きした食物は一切口にできなかった）。

ここには火こそ燃やしつづけていないが、代々の国造の用いてきた宝器で浄らかな火を熾すことによって火の継承をはかろうとする姿がある。火の継承されたこと（即ち新国造が誕生したこと）が確認されるまでは国造の死は認められないわけ、そこには国造という存在は死去することなく、古来、継承相統されつづけるものだという観念があるのだといえよう。また、火が継承されたことによって、前国造が用いていた現実の火はすべて更新すべきだという観念もあるわけである（近代の事情はわからないが、おそらく大きくは変わっていないであろう）。

古代以来連続と継承されているという出雲大社の火の観念と、他の社寺、さらには一般家庭の火を同一に論じるべきではないかもしれないが、とにかく日本の伝統文化には火の継承相統と更新という考えがあるのである。

皆様方の地域生活や祭り・行事ではいかがでしょうか。（文中の行事に関する写真は当財団の設立二〇周年記念誌「わが国における地域の伝統文化」より転載）

II 現地取材レポートII

熊本県宇土市

「宇土市轟泉簡易水道組合」様を訪ねて

日本最古の現役上水道

「轟泉水道」を訪ねて

今回は、熊本県宇土市の『宇土市轟泉簡易水道組合』様をお訪ねしました。

宇土市には、日本国内で現在使用されている上水道施設では最も古い「轟泉水道」があり、『宇土市轟泉簡易水道組合』様が、その水道の維持・管理を事業の柱とする活動をされています。

当財団は平成二十七年にこの水道管の補修に欠かせない「ガンゼキ」と呼ばれる、独特の接着剤製作技術を継承するための費用を助成させていただきました。

宇土市は、熊本県のほぼ中央部で、有明海と八代海を二分する宇土半島の基部に位置し、半島のほぼ北半分を占めています。気候は一年を通じて温暖で、その気候を利用したネーブルオレンジやデコポンなどの果樹栽培



培が盛んであり、また、キリシタン大名小西行長の城下町としても知られています。

轟水源のある轟地区は、人口約三二〇〇人、市街地の西南部にある宇土半島の付け根に位置する地区で、「中世宇土城」や「第八代横綱不知火諾右衛門の墓」など豊富な文化・観光資源に恵まれています。地区西部には果樹園が広がり、山の谷間に農地と集落が分布しています。

取材は、八月二十八日に訪問させていただきましたが、その三日前には、台風一五号が熊本県を直撃して大きな被害をもたらしており、組合員の皆様には、その後片付け等で大変お忙しいところをご協力いただきました。

当日は、田上幸人組合長をはじめ七名の組合員の方々と、宇土市教育委員会の木下洋介文化課長にもご同席いただき、「轟泉水道」の歴史等、貴重なお話しと、ガンゼキの製作や水道管補修の実際を拝見することができました。

「轟水源」について

「轟水源」は、宇土市宮庄町にあり、約一五〇坪の貯水池から一日約六〇〇〇トン（毎分四二〇〇リットル）の水が湧き出ています。宇土半島の大岳系山

魁、白山・宇土山等に浸透した地下水が湧き出しているものです。昭和六十年には、環境庁により日本名水百選に選定されています。年間を通して水温は一六度で、夏でも足をつけると数分で痺れてしまうほどです。



【水源下の池で遊ぶ子ども達】



【地下水が湧き出ている水源】

この水源から始まる「轟泉水道」の総延長は、支管も含めて

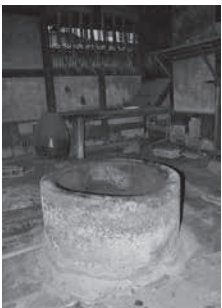
四八〇メートルにもおよんでいます。

「轟泉水道」とその歴史

現役の上水道では日本一古く、江戸時代から脈々と、今も轟水源から宇土まで流れて生活用水として使われています。

寛永九年（一六三二）、加藤清正公の後に細川忠利（ただとし）公が小倉から入部し、熊本藩（五四万石）の初代藩主になりました。そして、正保三年（二六四六）、その支藩として宇土藩（三万石）が置かれ、細川行孝（ゆきたか）公が藩主となりました。

宇土の町は、有明粘土層の上に作られたため、地下水は少なく、しかも塩分や鉄分を多く含む、飲料水の確保は困難でした。行孝公は、寛文三年（一六六三）に、宇土の南西部の白山の山麓にある湧水（轟水源）を、約三キロメートル離れた宇土の町まで導く水道を敷設することを計画し、約四カ月の工事を経て、宇土御屋敷や武家屋敷にそれぞれ井戸が作られ、水道管から水が送られるようになりました。また、庶民には翌年までに共同井戸が作られ、誰もが手軽に利用できるようになりました。



【武家屋敷（高月邸）の井戸】



【共同井戸（船場橋）】

これらの費用は、行孝公が譲り受けていた藩の宝物、千利休の茶入れや茶筌などを三千両で売って凌いだのだそうです。

水道管は、当初は瓦質の管を使用していましたが、一〇〇年も経過すると水道管が傷み、水漏れや濁りがひどくなってきました。そこで、明和六年（二七六九）頃、五代藩主細川興文（おきのり）公が、宇土半島の網津で採れる馬門石（まかどいし）（阿蘇溶結凝灰岩）を凹形にくり抜いた石管への改修工事を行いました。



【馬門石の石管】

馬門石は、瓦に比べて堅牢で加工が容易という特徴があり、宇土周辺の古墳への利用に留まらず、古代近畿方面の有力豪族の石棺としても利用されています。



[水道管が川を横断している]  
(投げ渡し)



[道路の中央に伸びる水道管]  
(塘の上に通されたもの)

また、轟水源（標高八メートル）から末端の船場付近（標高四メートル）までの高低差が四メートルほどしかなく、様々な工夫が施されて送水を可能になっています。

地盤の高い所は約二メートルも掘り下げ、低い所では土手状の一塘（とも）を作り、その上に水道管が通してあります。また、所々に水圧調整や流れてきた砂などを溜める「枡」が配置されています。



(新旧の水道管の重なっている箇所)  
上：馬門石、下：松橋焼



②塩と貝灰を入れる



①石臼に、赤土と松葉の煮汁を入れ、混ぜ合わせる

**接着剤「ガンゼキ」の製作**

簡易水道組合様のお話では、市上水道との併用を含め、現在では約九十戸で利用されています。そして、この水道管の結合や水漏れなどの補修に「ガンゼキ」と呼ばれる接着剤が現在も使われています。

「貝灰」・「松葉の煮汁」を石臼に入れ、杵で搗いた粘土状のもので、水の中でも固まるという特徴を持っています。国内で唯一の当組合で代々伝承されている接着剤兼充填剤です。その製作の工程と水道管の補修を実際に拝見することができました。



④餅つきの要領で柔らかくなるまで杵で搗く

右の写真で、握ね棒を使っていらっしゃるのが「ガンゼキ」製作と水道管の補修技術を伝承されている松川紀幸様（七四歳）、その隣が後継者の藤原栄一様（五五歳）です。藤原様は、今年度から後継者として指導を受けていらっしゃいます。「ガンゼキ」作りは、赤土・松葉の煮汁・塩・貝灰の配合割合と、杵でどの程度まで搗くかといったところが難しく、松川様は、「ほっぺたの柔らかさ」を目安にされているとのことでした。



③握ね棒で混ぜ合わせる

水道管の破損や漏水、根詰まりなどが原因で水道の水が止まったり、水量が減ることがあります。特に多いのは水道管に樹木の根が入り込み、内部で根が異常に大きく長くなることです。組合では、連絡を受けるとその原因を調べ、補修を行います。

水道管の破損箇所を探したり、また「竹通し」と呼ばれる道具を使って根詰まりの場所を探します。原因を突き止めたら、石蓋を外してきれいにし、再び「ガンゼキ」で塗り固めます。大変な重労働になります。

**「ガンゼキ」を使った補修**



⑥作業がしやすいように、20cm位の棒状にする [完成]



⑤餅のように搗きあがったところ

轟泉水道の管理は、当初は宇土藩内に置かれ、廃藩置県後は町役場の管理になりました。明治二七年（一八九四）には水利組合となり、昭和二七年（一九五二）には簡易水道組合の管理となり現在に至っています。

**轟泉簡易水道組合**



樹木の根等やごみをきれいにし、「ガンゼキ」を使って元の状態にする



「竹通し」を長く伸ばして石管に差し入れ、内部の詰まり箇所を探す



石管内部で、樹木の根の侵入箇所を調べる道具「竹通し」

組合は、水道を利用する約九十戸で構成され、組合長をはじめ一〇人の役員と組合員で運営されています。組合の運営資金は、各戸からの年間一百万円の水道使用料を主な財源として運営されています。また、毎年七月二十日には、水源地に西岡神宮の宮司を招いて、水神に感謝し、日々安全で良質の水道水の供給を願う、水神祭が執り行われます。当日は、組合員総出で、水源地の掃除（池浚え）が行われています。

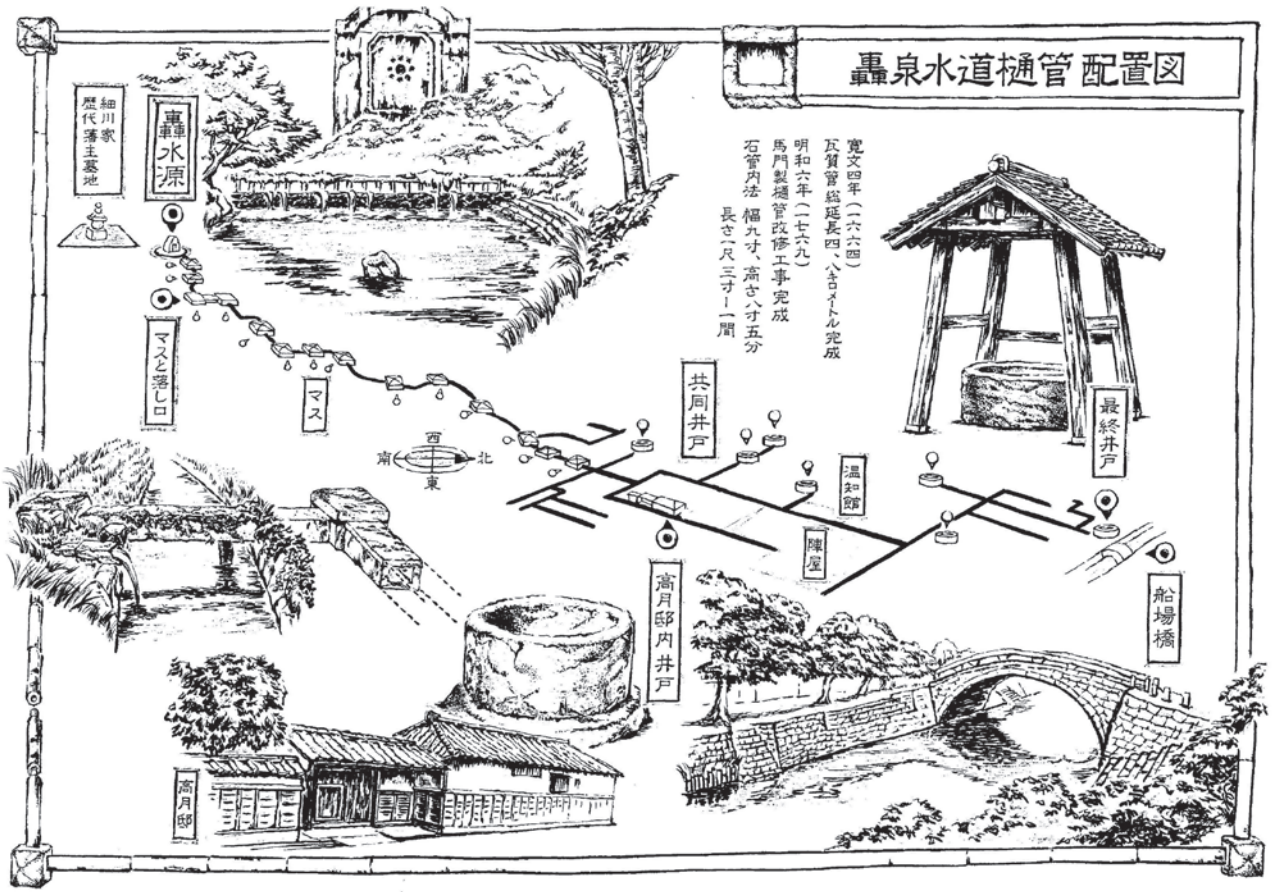
取材を終えて

当日は、台風一過で倒木や落葉がたくさん残っており、自然エネルギーの凄さを改めて感じました。一方で、生活に欠かせない水を確保するために、膨大な数の石管を短期間に繋いで作られた水道を拝見し、人間が持つエネルギーの凄さも感じました。生活に密着した水道管の維持には組合の活動が欠かせません。今後も美味しい水を各家庭に届けるため、ガンゼキの製作技術を末永く継承していかれることをお祈りしています。

(財団事務局長 山内 彰)

【参照資料】

- ◆「うとの魅力」(宇土市教育委員会)
- ◆「轟泉水道はどのようにして造られ、使われてきたか」(高木恭二氏著)



【轟泉水道樋管(水道管)配置図】(宇土市教育委員会提供)

寄稿

鹿踊りの継承と保存について

岩手県大船渡市  
小通芸能保存会

会長 三条 勝芳

(平成二十七年 度助成先)

◇大船渡市と小通鹿踊りのエピソード

岩手県大船渡市は、岩手県沿岸部の南部、宮城県との県境近くに位置します。先の東日本大震災では、大きな被害を受けましたが、近年はサンマの漁獲量が本州一を達成するなど、産業復興の兆しも見せながら本格復興へ邁進しています。

私どもの小通鹿踊りが伝承される大船渡市日頃市町は市郊外の中山間地域であり、この踊りが書面上の記録としてこの地域に伝授されたのは嘉永五年(一八五二)とのことであり、現在の岩手県一関市から行山流という流派の鹿踊りを二名の師匠から教えを乞うたとあります。しかしながら、口伝によると小通鹿踊りはそれ以前に現在の宮城県南三陸町の名士より伝承されたとの伝えがあり、鹿頭を刻んだ年号が確認できれば、その口伝の関連性も伺うこともできると思います。

◇祭礼への奉納からイベントへの出演

郷土芸能の要素には、五穀豊



穰や先人供養、安全祈願など多様な意味合いがあると思います。この鹿踊りで見ると行山流の鹿踊り、あるいは大別したところでは太鼓系鹿踊りとも言われますが、回向という踊りが中心になっていっているのではないかと考えられます。そのことから、お盆などでは寺院の境内での奉納であったりとか地域の各戸を回り位牌に対して回向の舞を踊る場面もございます。

また、当地区では四年に一度、地域の氏神様の祭礼が盛大に行われ、その際は神社での奉納、神幸行列への参加、フィナーレには、地域住民の前で大胆に華麗な舞を披露してきました。この、小通鹿踊りには、「回向」が静かなる舞であれば、「狂い」という非常に動的なアグレッシブな演目を持ち合わせていま

す。そのことから、戦後の世相が安定してきた時期からは、各種芸能大会やイベントに招待され、その動的な舞を堂々と披露してきたのであります。発足当初から比べれば、魅せる芸能という形が確立され、伝承する若者の誇りと観衆の感激が呼応し合うように発展してきたのではないかと考えます。

◇鹿踊りと地域

この地域では、郷土芸能は地域団結の象徴と言って過言ではありません。表舞台に立ちあがる若者、指導や育成に関わる保存会役員などの中堅層、衣装や細かいお世話に関わる女性陣、そして、この踊りを見て育つ子供達、踊りを誇りに思う高齢者。まさに地域一丸となつて百五十年以上を守ってきたわけです。そこには、地域愛が溢れ、同じ土地に住みながら同じ感動や誇りを共有しながら絆を深めてきたわけですね。

◇踊りの演目と装束

鹿踊りは基本形として八頭立てで、八名が踊ります。八頭が太鼓を打ち鳴らしながら、また歌を歌いながら時に静かに、または豪快に身体を動かして踊ります。「三人狂い」「大松狂い」という演目は、当鹿踊りのメインとなる演目です。注目すべきは、「鉄砲踊り」という演目であり、一頭の鹿が獵師に打たれ、鹿の仲間たちと獵師がユーモラスにやりとりを行うストーリー性に共感させられながら鑑賞できる踊りです。



また、現在のメンバーで十年ほど前に五十年間も途絶えた「案山子踊り」という演目を復活させることができたのは私たちの誇りでもあります。

装束には、角の付いた鹿頭を中心に太鼓やササラ、袴などたくさんのパーツがあります。その装束の脱着や管理につきましても伝統として継承されてきた技術でもあります。

◇今後の課題と方向性

私どもの住む地域は、全国の過疎地域同様に限界集落へと向かっているのは疑いようのない事実と認識しております。今までは、地域の若者から子どもたちへと伝承されてきた訳でありますが、地域の子どもの絶対数も激減し伝承活動もより厳しい状況下となってきました。それ以外にも、地域人口の減少、地域社会の希薄化、またはイベントなどの減少による出演機会の減少など様々な課題が挙げられます。

今まで通りの継承活動では、この踊りは末永く続けることは出来ないことから、我々は踊り手の後継者を地域外、まずは隣接の地区など、そして踊ってみたいと志願される方を受け入れる体制を作り上げていきたいと考えています。

また、舞を体験する機会を多くの方に提供するなど、既成概念にとらわれず末永く踊られ親しまれる環境づくりを行う所存です。

郷土芸能には地域を開発する、無形のポテンシャルがあると考えます。地方創生が叫ばれる昨今ではありますが、小通鹿踊りが舞を通して元気を勇気を発信し、「大船渡は復興していくぞ！頑張っているぞ！」という気概を見せながら、観る人が感動し、踊る人が躍動する舞を継続したいと思えます。

それが先人に対する私たちに任された役目であると信じております。皆様方の絶大なるご声援、応援をお願い申し上げます。

# 稿 寄 神子原獅子舞に関する伝統について

石川県羽咋市神子原町  
神子原壮年団  
団長 石山 雄介  
(平成二十七年助成先)

## ◇はじめに

古老の話をききながら、消滅してしまつたものもあり、探り得なかつたものも多くあると思ひます。悔いを残したままであるが、一日調べを遅らせばそれだけ「語り伝えが消えて無くなる」と思ひまゝとめたものです。

## ◇神子原地区

「そらやつさ、まいぞつ、まいぞつ」  
季節は秋、獅子舞をはやす掛け声、祭り太鼓、笛、鐘の音が集落到に響く。  
石川県羽咋市神子原町は、富山県と境を接する能登の磐石が峰の麓の百余戸の山間の集落で、神子原米(ローマ法王に献上)の産地である。地名の由来は羽咋を治めた盤衝別命(いわつきわけのみこと)の子が現在の神子原地区を治めた事から神の子の原(神子原)となつたという説を伺つたことがあります。ふだんは静かだが秋祭り(本来、八幡社は十五日だが現在は毎年九月第三日曜日になつてゐる)が近づくと若い衆が氏神の八幡神社に集まり、夜ごと獅子舞の稽古に励みます。  
八幡神社は室町時代、年号は南北朝時代(応安一三六八〜七四)と聞き及んでおります。

(伝 神子原八幡宮創祀)  
町の中央にあたる西塚にあり、杉・あての社殿のなかに、西に鎮座しています。元あつた古宮は地滑りのため正徳二年(二七二二)に現在地に移転。今の社殿は文政五年(一八二二)の造営と伝えられています。  
古くから神子原地区では、五穀豊穡と疫病退散を願ひ秋季に獅子舞がでて神輿を先導し町内を回ります。獅子と天狗が時には相戯れあるいは死闘を演じ、最後に神子原にかけあがり、獅子殺しをもつて終演を迎える。この日は親類縁者が寄り集まり、山菜のしめなど家伝の味が続きます。



## ◇神子原獅子舞

『勇壮かつ華麗』  
神子原の獅子舞を思うときこの言葉が頭に浮かびます。演舞の概要としては、天狗は烏帽子をかぶり、顔には赤い鼻高面を付け、上衣をはおり、たすきが

けをし、鉢巻きを締め、紫色の袴を身につけ、青い竹棒を持ち獅子と向かい合う。一方獅子は、赤い大ぶりの獅子頭に「かや」といい、麻製の牡丹巻き(唐獅子)の模様染めの大獅子と、真つ赤一色で模様のない子獅子の二頭立てで天狗を睨んでゐる。天狗、獅子ともに、勇壮かつ華麗に、ときには滑稽に舞い踊ります。

神子原に獅子舞が伝わつたのは元禄年間(二六八八〜一七〇三)といわれています。当時は小型の獅子頭を使い舞いも比較的上品な「能登獅子」と呼ばれるものでした。明治三十年代に入ると、獅子連中や住民の間から「もつと勇壮で見応えのあるものをやろう」という声が上が

り、富山県氷見市の神子原に近い境の村に向向き「越中獅子」を習つてきたと伝え聞いております。  
神子原の獅子舞で語らずにはいられないのが「獅子殺し」です。この舞はこの日一番の盛り上がりを見せる立派なものです。神輿の渡御とともに集落を回つてきた獅子と天狗はようやく八幡神社にたどり着きます。時間はすでに翌日未明になる事もあるなか、境内には住民はもろろん石川県内外からも見物客が訪れ、獅子が境内に入るのを今か今かと待ちかまえています。左右にかがり火、そして迫力ある火花が打ち上げられる中「宮上がり」の演目が粛々行われ、神輿と共に境内にだれこみ、いよいよクライマックスとなり退治する筋書きです。一種独特な光を放つ提灯、蠟燭、炎、不気味な陰影を有し鈍く光る獅子が天狗との激闘の末途絶えていく中、烏帽子を怪しく揺らしながら勝ち誇る天狗。その場は非現実の領域と化してしまいま

す。自らもこの演目を舞つた事がありすが、取り憑かれた様にその世界に入り込んでしまふ感覚を覚えた事を思い出します。



## ◇神子原壮年団活動

神子原壮年団の活動としましては、同町の地域活動はもとより、石川県内外のイベントにも依頼があれば積極的に獅子舞を出しています。

また、最近では羽咋市歴史民俗資料館が市内の地域に伝わる獅子舞の伝承状況を調査しており、神子原壮年団としても、共に意見交換を行い地域の発展、さらにはふるさと創生につなげようと意気込んでいます。

## ◇獅子舞の継承活動と人員不足

神子原壮年団が伝統ある獅子舞の形を大きく崩さずに伝承してこられたのには二つの大きな要素があると思ひます。一つ目に獅子舞の見せ方や意味などの伝承。二つ目に団員の統制。

一、獅子舞の技、芸、ストーリーを獅子連中は勿論のこと、古老に至るまでが練習中や、酒宴の席でいつも若い衆に言い聞かせていること。

二、団の中で、しきたりやルールが確立されていること。こちらも秋祭り時分になると、よく

教えられたものでした。知らなかつたことや、再確認させられる事が未だにあり、良し勉強になってゐます。若かりし頃を思うと、「そらやつて社会勉強をしていったんだな」と今、感謝しています。獅子舞もしきたりも時代と共に柔軟な変化はあるものの、物事の本質を理解した上で考えや行動に移す事ので、大きくおぼれる様な事がなかつたのではと思ひます。

ただ、団では人員不足という問題も抱えています。神子原壮年団へは中学校にあがる年に入団します。神子原地区は過疎集落で高齢化が進み、新規入団者の確保が困難な状況にあり慢性的な人員不足にあります。団員だけでは、とても獅子舞の渡御など不可能な状況です。しかし、退団された方や市外、県外に住んでおられる方が秋祭りになると、神子原に帰省し団にご協力下さつて下さるおかげで、毎年無事、渡御する事が出来ています。

「盆、正月には帰省せぬが、秋祭りには必ず来る」と多数おみえをあらわにする方々とも意気込られ、また祖母の知人(北海道在住)においては、「九月の秋祭り時分になると太鼓と鐘の音が耳の奥にこだまする」という方もおられるようです。いずれにしても、このように神子原獅子舞で一致団結できる事、そしてその一員でいられる事は大変に誇れる事です。

## ◇最後に

神子原壮年団では団員のみならず町民皆が、我が町を愛しています。  
「我がふるさと」を愛し、「ふるさと」の香りを消さないために!!

祭りは神と人とが触れ合う場。大自然の営みの中で精一杯の力を出して舞い、祈る場です。



寄稿

# 山根神楽の継承について

広島県安芸高田市  
山根神楽団

団長 地頭 功宗  
(平成二十七年 度助成先)

## ◇山根神楽団の概要

山根神楽団は、広島県安芸高田市高宮町川根の山根集落にあり、かつての人口は数百名いたようだが、現在の人口は数十名の小さな集落です。小さな小川をはさみ、島根県邑智郡邑南町上田に接する場所にあり、昔でいう「安芸の国、石見の国、備後の国」の三国が接している中国山地に位置しています。

山根神楽団の起源は、寛政二年(一七九〇)島根県邑智郡邑南町阿須那にある賀茂神社十四代神官、齊藤一正氏に習いに、山根集落の橋詰友衛門・沖田屋格太郎・地頭屋善右衛門・地頭分丈衛門ら四名が出向き、持ち帰ったとあります。その当時、島根県邑智郡一帯は神職が大元神楽を舞っており、その神職神楽が元になったといえます。

現在、保持している演目は約三十演目ありますが、継承している演目の中でも、儀式舞である古典演目「剣舞」が昭和二十九年四月二十三日に広島県無形民俗文化財に指定され、現在も当時のまま継承されてきました。

## ◇山根神楽の継承について

寛政二年(一七九〇)より、四名が習い、地頭丈助、地頭喜代人・地頭興一、地頭 覚・地頭正、現在の地頭功宗以下、約二十名の団員に継承(二百二十五年間)されてきました。結成以来、地頭家が代々継承に関わっております。

昭和初期ごろ、大八車に衣装等一式を積み神社から神社へと、九月十一月には帰宅せず夜を徹して舞い歩くこともあったようです。



しかしここまでは、順調に継承してきたわけでもなく、多くの農村がそうであったように山根地区も時代の流れに背くことができず、若者の多くは仕事を求めて都会へ行き、山根には年老いた人たちが目立つようになり衰退しかけない状態でした。昭和五十年頃、「これではいかん」

## ◇近年の活動について

と山根地区出身で広島市内に在住していた有志数人が立ち上がり、練習場所等、拠点を広島市内に移して活動をはじめました。しかし、広島市内には神楽団独自の練習場所はなく、週に二回(各二時間)場所を借りて練習しています。衣装保管倉庫も神楽団専用倉庫はなく、どちらも使用料を払い維持している状態です。

現在の団員は、中学生から七十歳代まで約二十名の幅広い年代で構成されています。高宮町出身者や山根地区出身者、最近では広島市内の団員が増えました。特にここ数年、学生の入団者が増え、近年でできなかった演目もできるようになりました。

本来神楽は、秋の収穫の際、各神社の氏神である神社に奉納するものですが、ここ三十、四十年来、広島県では各地で競演大会が開催され、優秀を競っています。山根神楽団は、競演大会などで優秀を競うより神社の奉納神楽を大事にしています。



各地神社での奉納神楽、高宮

町川根地区にあるもう一団(梶矢神楽団)と、交互に奉納している地元川根にある降子神社・沖原山神社では、毎年十一月二日に奉納しています。島根県邑智郡邑南町上田にある上田八幡宮では、十月四日に梶矢神楽団と年一回交互に奉納しています。

また、各種イベントや福祉施設での慰問等、また安芸高田市にある神楽門前湯治村で市内二十二団体交代による週末金・土・日祝日に行われる定期公演・夜神楽が年六回程度あり、年間約二十五回公演・奉納しています。

当地域では、一方で競演大会・新作神楽等が各地で年中開催されています。すべての神楽がそうでないし、本来の神楽とはかけ離れ、ショー化している面があり危惧しているところですが、そういった危機感をもった、近隣の神楽団が五年前より「里神楽協議会」を立ち上げ、「本来の神楽とは何か」、「古来より伝えられた神楽を大事にしよう」、「先代より伝えられた神楽を後世に伝える場」として毎年六月第二土曜日に島根県邑智郡邑南町下口羽において、当地のホタル祭りと共に「里神楽」を自主開催(公演)しています。

また、広島・島根県が主な活動場所ですが、昭和六十年には、広島市・ハワイホノルル市との姉妹都市提携二十五周年を記念して、ハワイにおいて公演。平成二十四年六月には、安芸高田市からの要請で、福島県いわき市と相馬市へ福島応援神楽公演

に出かけ、大変に喜んでもらいました。



## ◇今後の継承活動について

奉納神楽や、公演が以前より減少しており、神楽団を維持・継承していくことは、大変困難なことではあります。加えて、当神楽団においても、高齢化が進み、将来は不安な面があります。近年でできなかった演目や、保持している約三十演目を、後世へと正しく継承・伝承していくためにはならないと思っております。練習場所や衣装保管場所も今後どうなるかわかりませんが、とにかく山根神楽を絶やしてはならないという強い思いを持ち続けたいとおもいます。衣装も修繕などしてやりくりしてきましたが、今回、「相当古くなった衣装をなんとかしたい。」と思いつき、助成金で新調し、大変良い衣装が出来上がりました。

これからも、「古来より続く山根神楽の伝承」という目標の基に日々、精進していきたいとおもいます。

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1)

\*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成5年度助成(35)		平成3年度助成(29)	
徳島県	猿坂獅子組保存会	北海道	ヤイユーカラの森 *	北海道	石崎奴保存会
愛媛県	八幡丸運営委員会		新十津川町獅子神楽保存会		厚岸かぐら保存会
高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	青森県	新山権現保存会	青森県	紙漉沢獅子踊保存会
福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *		七戸町郷上芸能保存会
長崎県	館浦須古踊り保存会		赤沢芸能保存会	岩手県	白浜剣舞保存会
	大島村盆踊振興会	宮城県	宮崎獅子舞保存会	宮城県	とよま囃子保存会
熊本県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	秋田県	中野七夕保存会	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造) *
大分県	重岡岩戸神楽保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	群馬県	岩島麻保存会 *
宮崎県	村所神楽保存会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄) *	東京都	説経節の会
	佐々木寛治郎氏(手漉き和紙) *	群馬県	大神楽獅子舞保存会		秋川歌舞伎保存会
鹿児島県	蓬原熊野神社神舞保存会	埼玉県	明覚郷流鎗馬保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	千葉県	野田津久舞保存会	福井県	越前万歳保存会
平成7年度助成(43)		神奈川県	大谷芸能保存会	長野県	木曾漆器保存調査会 *
北海道	月浦獅子舞保存会	石川県	能登の揚浜式製塩保存会 *	岐阜県	大井文楽保存会
	釧路アイヌ民族芸企業組合 *	福井県	花山行事保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
青森県	沼崎念仏獅子舞保存会	岐阜県	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会	奈良県	石打太鼓踊保存会
岩手県	小梨芸能保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	和歌山	大島水門祭保存会
秋田県	戸沢さら保存振興会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
	鷹巣町綴子大太鼓上町保存会		二木島祭保存会		島後久見神楽保持者会
山形県	遊佐のアマハゲ保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	兵庫県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会		金城一国斎後継者池田昭人氏 *
福島県	葛尾三匹獅子保存会	和歌山	土生八幡神社お頭保存会		西原上十二神祇神楽保存会
栃木県	大沢田太々神楽保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *	徳島県	中村園太夫座人形浄瑠璃
千葉県	佐原囃子保存会		中野神楽保存会	福岡県	加布里山笠保存会
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	広島県	八千代神楽団		新多神相撲保存会
富山県	八尾町曳山保存会	山口県	鷺の舞保存会	長崎県	大村龍踊り保存会
福井県	糸崎寺佛舞保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	大分県	木傘田子供神楽保存会
	福谷区大火勢保存会	香川県	中山農村歌舞伎保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
山梨県	藤木道祖神祭保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		大人歌舞伎保存会
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	平成4年度助成(34)	
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
三重県	深野和紙保存会 *	熊本県	上井出神社奉納楽保存会		長沼町勇獅子舞保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ)踊保存会)	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	宮崎県	村所神楽保存会		上郷伝統工芸研究会 *
	堺式手織段通技術保存協会 *	鹿児島県	東郷町文弥節人形浄瑠璃保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
兵庫県	熊野神社祓祭り保存会	平成6年度助成(40)			鷹生郷土芸能保存会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会 *	宮城県	金津七夕祭保存会
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会		鬼鹿松前神楽保存会	秋田県	大葛金山民俗芸能保存会
	出雲民芸紙工房 *	青森県	鮫神楽保存会		前山郷土芸能保存会
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	岩手県	上郷伝統工芸研究会 *	山形県	押切神楽保存会
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」		石橋鑑鏡舞保存会	神奈川	民具製作技術保存会 *
山口県	別府岩戸神楽舞保存会		夏井大梵天神楽保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	宮城県	矢本町塩入神楽保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
愛媛県	大江山保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所		一色町能楽保存会
高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		三日市オナイ保存会
福岡県	平八月祭り保存会	富山県	西川古柳座	兵庫県	淡河八幡播州音頭踊り保存会
佐賀県	西塩谷面浮立保存会	石川県	五ヶ種ファンカレ踊り保存会		池尻神社人形狂言保存会
	武雄流鎗馬実行委員会		柏野じよんがら保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会		能登の揚浜式製塩保存会 *	鳥取県	日南神楽 神光社
熊本県	久連子古代踊り保存会	福井県	だのせ祭り保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興) *
大分県	丸山俚楽保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会		隠岐いぐり凧保存会 *
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会	長野県	日吉御鞆様祭り保存会	広島県	備後かすり学習会 *
鹿児島県	入来麓泡瘡踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会		羽佐竹神楽団後援会
	佐仁八月踊り保存会	三重県	大淀祇園祭保存会	山口県	鷺の舞保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元) *	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	高知県	船戸花取踊保存会
平成8年度助成(47)		兵庫県	青田神楽保存会	福岡県	大分獅子保存会
北海道	留萌岩戸神楽保存会	奈良県	誠語会	佐賀県	嬉野町今寺面浮立保存会
	(財)アイヌ民族博物館 *	和歌山	真国御田保存クラブ	長崎県	鷹島町島踊保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	鳥取県	アリエ・グリシ *		萩田浮立保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	島根県	赤塚神楽佐義利保存会	大分県	武多都神楽保存会
	平組はしご虎舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会 *	宮崎県	潮嶽神楽保存会
宮城県	武鎗鹿踊保存会		名荷神楽団		杣木臼太鼓踊り保存会
秋田県	鷹巣町綴子下町大太鼓保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	鹿児島県	三島村八朔踊保存会
	鳥田目番楽保存会				

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2)

\*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
大分県	国東神楽社	京都府	棚倉孫神社瑞鏡御輿保存会	平成8年度助成(続き)	
宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	京都府	久多の山村生活用具保存会*	山形県	西川一座
鹿児島	伊崎田和紙保存会*	大阪府	貝塚三夜音頭継承連絡会	福島県	上三坂のやっつき踊り保存会
	鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会	茨城県	あんば囃子保存会
沖縄県	草戸原	奈良県	安堵町なもて踊り保存会	栃木県	宗円獅子舞保存会
	前バル原	和歌山	高芝の獅子舞保存会	群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会
平成11年度助成(48)		鳥取県	福栄伝統芸能保存会	千葉県	仁組獅子舞保存会
北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*	島根県	民谷神楽団	東京都	ふるさと資料館建設推進委員会*
	穂別町アイヌ民族文化保存会	岡山県	大賀島大智明権現保存会	神奈川	仙石原神楽保存会
青森県	龍神社法霊神楽保存会	広島県	江波漣伝馬保存会	新潟県	赤玉文化財保存会
岩手県	山内神楽保存会	徳島県	高川原勇獅子保存会	富山県	八尾町曳山保存会
宮城県	城生野神楽会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会		時の会・福野の過去・現在・未来*
秋田県	大沢郷椒沢番楽保存会	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会	福井県	加茂神社上宮の神事
山形県	越沢自治会	福岡県	松会保存会	山梨県	大久保文化財保存会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会*	佐賀県	飯田面浮立保存会		沢登六角堂切子保存会*
	豊景神社太々神楽保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ン芸保存会	長野県	成就神楽囃子保存会
茨城県	日枝神社流鏝馬保存会	熊本県	中窪田神楽保存会		阿島傘の会*
栃木県	升塚獅子舞保存会	大分県	野々河内神楽保存会	岐阜県	串原歌舞伎保存会
群馬県	奥平神社獅子舞保存会	宮崎県	高城町穂満坊あげ馬保存会	愛知県	(財)平野町町政会
埼玉県	深作ささら獅子舞保存会	鹿児島	徳重大太鼓踊り保存会	三重県	一色町能楽保存会
東京都	江戸消防彩粋會	沖縄県	平原利秋氏(ゴッタン・楽器製作)*		深野和紙保存会*
新潟県	杉野沢民俗芸能保存会		泡瀬京太郎保存会	大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会
富山県	福光ちよんがれ保存会		伊波貞子氏(メジャー・織物)*	兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会
石川県	上井田獅子舞保存会	平成10年度助成(47)		奈良県	南都晃耀会
福井県	美浜町和田区	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会	鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会
山梨県	中之倉神楽保存会	岩手県	白符荒馬踊保存会	島根県	伝承ホーランエンヤ馬湯濯伝馬保存会
長野県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	宮城県	丹内金津流鹿踊保存会	岡山県	川上町渡り拍子保存会
三重県	曾原かんこ踊保存会	行山流鹿踊保存会		広島県	阿刀神楽保存会
滋賀県	油日神社奴振り太鼓踊り保存会	山伏神楽保存会		山口県	陶の腰輪踊り保存会
大阪府	吉志部神社どんじ保存会	雄物川町岡本新内伝承会		愛媛県	お簾踊保存会
兵庫県	大蔵谷獅子舞保存会	五城目町民俗芸能保存連絡協議会		高知県	遼・三番双保存会
奈良県	吉野山青年団御田植神事保存会	福岡サエの神保存会		福岡県	流鏝馬武徳会
和歌山	小川郷土芸能保存会	平田さしこの会*		佐賀県	蔵上町民俗芸能保存会
鳥取県	芦津獅子舞保存会	群馬県	猿田彦神社大和神楽保存会	長崎県	鬼木鐘浮立保存会
島根県	御霊会風流保存会	大宮神社獅子舞保存会		熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
広島県	幸崎町能地春祭保存会	神奈川	海南神社面神楽保存神楽師会	大分県	天間地区公民館
山口県	数方庭保存会	新潟県	湯川五社神社俗人会	宮崎県	広原神楽保存会
徳島県	阿波木偶箱まわし保存会	石川県	木津豊漁太鼓保存会	鹿児島	大的始式保存会
香川県	さぬき農村歌舞伎祇園座保存会	福井県	若狭町三宅六斎念仏保存会		柏原区芸能保存会
愛媛県	高知獅子保存会	長野県	内山柱松保存会	沖縄県	武富旗頭復元実行委員会
	長命講伊勢踊	岐阜県	若松友志会	平成9年度助成(47)	
高知県	土佐歌舞伎伝承会	三重県	栗谷念仏踊り保存会	北海道	雷公神社神楽会
福岡県	今津人形芝居保存会	滋賀県	老杉神社頭屋行事保存会	青森県	田子神楽保存会
佐賀県	嘉瀬之浦獅子浮立保存会	京都府	伊根町立石区	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会
	森鉦浮立保存会	久多の山村生活用具保存会*		宮城県	嵯峨立神楽保存会
長崎県	西大村浮立保存会	野間出野秋祭り保存会		秋田県	森岳歌舞伎保存会
熊本県	樺木神楽保存会	多可町中央公民館播州歌舞伎クラブ		山形県	小田島田植踊保存会
	高沢組太鼓踊り保存会	祭文音頭保存会		福島県	北部先囃子若龍会
大分県	五馬本村楽保存会	木本八幡宮の御田祭保存会		栃木県	芦沼獅子舞保存会
宮崎県	尾八重神楽保存会	円通寺人形芝居保存会		群馬県	沼須人形芝居保存会あけぼの座
鹿児島	久留平氏(太鼓製作)*	出雲大社教神代神楽波積支部波積神楽団		千葉県	野田津久舞保存会
	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	今田町内会		神奈川	宮城野獅子舞保存会
	平出水太鼓踊り保存会	横野和紙工業協同組合*		新潟県	警女唄ネットワーク
沖縄県	佐敷町津波古獅子蹴跳保存会*	比和町郷土芸能振興会			越後弥彦手仕事倶楽部*
	保栄茂自治会	つるぎ町天の岩戸神楽保存会		富山県	八尾町曳山保存会
平成12年度助成(49)		香翠座デコ芝居保存会		石川県	小松市歌舞伎愛好会
北海道	掛漣奴保存会	弓削雨乞踊保存会		福井県	和久里壬生狂言保存会
青森県	目名神楽会	西畑人形芝居保存会		長野県	仁科神明宮神楽保存会
岩手県	上郷し踊り保存会	鐘崎盆踊り振興会		岐阜県	新楽舎獅子舞保存会
	塚沢早池峰神楽保存会	東真手舞浮立保存会		静岡県	島田帯祭保存会
宮城県	和瀨法印神楽保存会	嬉野町温泉区面浮立保存会		愛知県	古出来町神社奉賛会
秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会	黒丸踊保存会		三重県	長太鯨船保存会
山形県	沢渡獅子舞保存会	目丸棒踊り保存会			なすび団扇継承保存会*
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会*	本町虫追い太鼓を考える会			深野和紙保存会*
	八槻都々古別神社楽人会			滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

\*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
長崎県	滑石竜踊保存会	大阪府	櫻井西青年団	平成12年度助成(続き)	
熊本県	菜ノ花会*	兵庫県	宗教法人 廣峯神社	茨城県	西金砂神社田楽舞保存会
大分県	九州相良古代踊り下免田保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	群馬県	平出歌舞伎保存会
	佐伯市宇目酒利獅子保存会	和歌山	熊野速玉大社祭事保存会	埼玉県	日進餅つき踊り保存会
宮崎県	下旦祇園囃子保存会こども祇園囃子	鳥取県	江波三番叟保存会	神奈川	NPO法人小田原鋳物研究所*
	行藤町白太鼓踊り保存会	島根県	都神楽団	新潟県	城腰花笠踊り保存会
鹿児島	六日町ヨイマカ保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会*	富山県	岩瀬まだら保存会
	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*		神根神社獅子舞保存会	山梨県	八朔祭下町屋台保存会
沖縄県	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	広島県	磐門神楽団	長野県	小菅柱松神事保存会
	大浜青年会		郷之崎神楽団	愛知県	大治太鼓保存会
	今泊棒術保存会	山口県	山崎八幡宮 本山神事保存会		能田徳若万歳保存会
平成15年度助成(35)		徳島県	大保じょうれい踊り保存会	三重県	ゆうづる会*
北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	愛媛県	河内口説保存会		大江羯鼓踊り保存会
青森県	大川原の火流し保存会		河内獅子連中	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
宮城県	山田大名行列組合	福岡県	浮羽町石垣保存実行委員会*	兵庫県	さいれん坊主保存会
秋田県	潟船保存会*	佐賀県	佐賀錦振興協議会*	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
	根子番楽保存会		西神野玄蕃一流浮立保存会		田口水分神社奉讃会
山形県	吹浦田楽保存会		千代田中部小学校 高志狂言保存会	鳥取県	竹田さいとりさ少年団
群馬県	行田獅子舞保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会	島根県	追神頭打供盛団
千葉県	パッパカ獅子舞保存会	熊本県	菜ノ花会*	広島県	養山八幡の吹囃子行事保存会
神奈川	長谷ささら踊り盆唄保存会		相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会	山口県	柳井縞の会*
石川県	輪島市本町キリコ奉賛会		産島八幡宮海を渡る祭礼保存会		祝島神舞奉賛会
岐阜県	数河獅子保存会	大分県	板井迫神楽保存会	徳島県	坂州若連中
静岡県	富士宮囃子保存会	宮崎県	虚無僧踊保存会	香川県	ひょうげ祭り保存会
愛知県	ちんところ祭委員会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	愛媛県	野市町立山獅子舞芸術保存会
三重県	本郷「かんこ」踊り保存会	沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会*		川名津神楽保存会
滋賀県	志那中サンヤレ踊り保存会		那覇市首里汀良町獅子舞保存会	高知県	一の宮万歳保存会
京都府	二箇上区	平成14年度助成(48)		福岡県	吉木芸能保存会
	阿良須神社練込保存会	北海道	篠路歌舞伎保存会	佐賀県	立岩浮立保存会
兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会	青森県	入口青年会		馬渡区鉦浮立保存会
奈良県	彦部郷土芸能保存会	岩手県	板用肩怒剣舞保存会	長崎県	土井丸浮立保存会
和歌山	椎出の鬼の舞保存会	宮城県	河南鹿嶋ばやし保存会		大浦区舟グロー保存会
鳥取県	貴布禰神社獅子舞保存会	秋田県	君萱若松神社神楽会	熊本県	嵯峨島オーモンデー保存会
島根県	見々久神楽保持者会		東長野ささら保存会	大分県	福山神楽保存会
広島県	枝の宮田楽団	山形県	南陽市古代織りの伝統を守る会*		放生会委員会
徳島県	つるぎ町一宇雨乞い踊り保存会	福島県	白鳥神社太々神楽保存会	宮崎県	北原人形芝居保存会
愛媛県	佐田岬裂織り保存会*	茨城県	真家みたまおどり保存会		伊形花笠踊り保存会
	客天弓祈禱保存会	栃木県	上横倉の獅子舞保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
高知県	狩山豊年踊り保存会	群馬県	上本木龍頭神舞保存会		下小原八月踊り保存会
福岡県	求菩提山お田植祭保存会	埼玉県	沖内囃子保存会	沖縄県	大川青年会
佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	千葉県	野田津久舞保存会		謝名アヤチ獅子保存会
長崎県	上戸石町芸能保存会	東京都	手作り絹研究会・多摩織部会*	平成13年度助成(50)	
熊本県	西安寺神楽保存会	神奈川	相模里神楽垣澤社中	北海道	ペーパン福島踊り保存会
大分県	大恩文化財愛護少年団	富山県	諏訪神社獅子舞保存会	青森県	高館駒踊り保存会
宮崎県	唐瀬子供神楽会	福井県	じじぐれ祭保存会	岩手県	小袖漁撈唄保存会
鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会	山梨県	下市之瀬獅子舞保存会		湯屋神楽保存会
沖縄県	いしやなぎら青年会		表門神社神楽保存会	宮城県	筆甫神楽保存会
平成16年度助成(36)			木賊獅子保存会	秋田県	八沢木獅子舞保存会
青森県	片岸えんぶり組	長野県	有道しゃくし保存会*		福米沢送り盆保存会
岩手県	田東剣舞保存会	岐阜県	伝承知多木綿つものき*	山形県	八ッ沼大名行列組合
宮城県	廿一田植踊り保存会	愛知県	石上げ祭伝承保存会	福島県	両原早乙女踊り保存会
秋田県	黒川番楽保存会	三重県	野口御神楽保存会	茨城県	東金砂神社田楽舞保存会
山形県	羽黒山松例祭若者衆	滋賀県	上砥山田楽踊り保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
福島県	昭和村からむし織後継者 →育成事業実行委員会*	兵庫県	南光子ども歌舞伎育成会	群馬県	上泉獅子舞保存会
栃木県	尾ざく獅子舞保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	神奈川	長安寺六字詰念仏講中
群馬県	赤城町古典芸能保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
千葉県	本納滝之谷獅子舞保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	福井県	今庄羽根曾踊り保存会
東京都	むさしのばやし保存会	岡山県	白明会*	長野県	湯原神社式三番保存会
神奈川	三増獅子舞保存会	広島県	大朝飾り牛保存会		外倉獅子舞保存会
富山県	宮崎神楽保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	岐阜県	高桑太鼓保存会
長野県	和田中神社太神楽保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	愛知県	金沢歌舞伎
	上駒沢祭典保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	三重県	なすび団扇継承保存会*
愛知県	向山神楽獅子保存会	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会		「てんでん」保存会
三重県	水沢お諏訪おどり保存会		祖子分面浮立保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
				京都府	天満神社相撲保存会

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4)

\* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県	大浦獅子保存会	秋田県	大湯太鼓保存会	平成16年度助成(続き)	
熊本県	柳別府太鼓踊り保存会	福島県	会津万歳安佐野保存会	滋賀県	ずいき祭保存会
大分県	深山流朝地神楽保存会	茨城県	片野排鍋ばやし保存会	京都府	丹後藤布振興会*
宮崎県	郷之原芸能協賛会	栃木県	興野ささら獅子舞保存会	大阪府	大阪太鼓文化研究会*
鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会
	如竹踊り保存会	千葉県	万作踊り松戸保存会	鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会
沖縄県	古見民俗芸能保存会	東京都	美山町鯨獅子舞保存会	島根県	須佐神楽保存会
平成20年度助成(40)		神奈川	あつぎひがし座	広島県	小原大元神楽 小原神楽団
北海道	寿都松前神楽保存会	石川県	加賀万歳保存会		南方の万灯保存会
青森県	上十川獅子踊保存会	福井県	舟寄踊保存会	香川県	肥土山農村歌舞伎保存会
岩手県	都鳥田植踊保存会	愛知県	きねこさ祭保存会	愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会
宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会	高知県	西諸木花取踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*	佐賀県	広瀬浮立保存会
山形県	舟渡獅子踊り保存会	兵庫県	仁色長持保存会	長崎県	太田尾地藏祭飾そめん保存会*
福島県	北萱浜神楽愛好会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会		戸根浮立保存会
栃木県	下鉢石町自治会	鳥取県	美成地区	熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*
	宝積寺白鬚神社雅楽部	島根県	野石谷伝統芸能保存会		下里臼太鼓踊り保存会
群馬県	椿名神社太々神楽保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会	大分県	荻神社俵楽
埼玉県	脚折雨乞行事保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*	宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	香川県	香翠座デゴ芝居保存会	鹿児島	入来神舞保存会
東京都	田無ばやし保存会	福岡県	豊前感応楽保存会	沖縄県	新川青年会
神奈川	海南神社行道面保存会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会	平成17年度助成(37)	
新潟県	他門神楽保存会	新潟県	平島ナーマードー保存会	青森県	青森ねぶた正調囃子保存会
	半田神社神楽舞保存会	長崎県	ききつ船津ペーロン保存会	岩手県	大ケ生山伏神楽保存会
富山県	八口諏訪社獅子舞保存会	熊本県	竹迫観音祭保存下町分会		大船渡喜多会
山梨県	大垣外獅子舞保存会		栖木町郷土芸能保存会	宮城県	新城の田植踊保存会
岐阜県	美濃歌舞伎保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会	秋田県	赤田獅子舞保存会
静岡県	掛塚屋台囃子保存会	宮崎県	熊襲踊保存会	山形県	蔵岡延年の舞保存会
愛知県	六ツ師獅子舞保存会		細野一区輪太鼓踊り保存会	福島県	館早乙女踊保存会
三重県	生桑町長松神社鏡餅奉納会	鹿児島	小島棒踊り保存会		木目沢三匹獅子保存会
	曾原かんこ踊保存会	沖縄県	中間棒踊り保存会	茨城県	日立郷土芸能保存会
滋賀県	篠田の花火保存会*		中城村字津覇伝統芸能保存会	栃木県	三本木獅子舞保存会
大阪府	だいがく保存会	平成19年度助成(39)		埼玉県	辻の獅子舞保存会
奈良県	川西町保田自治会	北海道	寿都松前神楽保存会	千葉県	岩沼の獅子舞保存会
和歌山	ねんねこ祭保存会	青森県	大平大神楽		中野獅子保存会
島根県	岩野原獅子舞保存会	岩手県	法領田獅子踊り保存会	東京都	幸田羯鼓舞保存会
岡山県	福石神楽団		羽山神楽保存会	神奈川	矢部八幡宮獅子舞保存会
広島県	名字獅子舞保存会	宮城県	浪板虎舞保存会	神奈川	田村ばやし保存会
	五日市芸能保存会	秋田県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会	福井県	蔵生区自治会
徳島県	後山からくり襷絵保存会	山形県	幸生区・三地区契約会	山梨県	高尾山穂見神社神楽保存会
香川県	流水灌頂法要保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会	長野県	熊野神社祭囃子保存会
福岡県	下町獅子山保存会		糠塚三匹獅子保存会	愛知県	桐原獅子舞保存会
長崎県	上原浮立保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会	三重県	牧野嶋念仏踊り保存会
熊本県	川島神楽連		山本政史氏(日光下駄製作)*	滋賀県	白塚町通夜講
	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会	滋賀県	渋川花踊り保存会
宮崎県	入下神楽保存会	埼玉県	下日出谷餅搗踊り保存会	兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会
鹿児島	前野田植民謡保存会	千葉県	八幡神社の獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
沖縄県	船浮民俗芸能保存会	東京都	星竹囃子連	和歌山	春駒保存会
平成21年度助成(42)		新潟県	内島見神楽保存会	島根県	矢上田植ばやし保存会
北海道	大船南部神楽保存会	石川県	二所宮獅子舞保存会	広島県	羽佐竹神楽団後援会
青森県	乳井獅子保存会	福井県	長畝日向神楽保存会	福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会
岩手県	四ツ堰鹿子踊り保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会	佐賀県	川内浮立保存会
	村崎野大乘神楽保存会	長野県	山新田太神楽保存育成会		三部区
宮城県	中新田火伏せの虎舞保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会	長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会
秋田県	梅内郷土芸能保存会	三重県	矢浜神楽保存会	熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会
福島県	渡戸高野・齋組	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会	大分県	田原獅子保存会
栃木県	文技流手岡獅子舞講中	京都府	田山花踊り保存会	宮崎県	川内棒踊保存会
群馬県	新井八幡宮獅子舞保存会	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会	鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会
埼玉県	北袋囃子連	岡山県	栗井春日歌舞伎保存会	沖縄県	天願獅子舞保存会
千葉県	不入斗同志会	広島県	長尾神社湯立神楽保存会	平成18年度助成(37)	
東京都	代々木囃子保存会	山口県	藤生神楽保存会	北海道	元更別大国神社石見神楽保存会
	山田獅子舞保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会	青森県	斗内獅子舞保存会
神奈川	小向獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会	岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会
新潟県	羽森神社神楽舞保存会	愛媛県	かぶと踊り保存会		生出神楽保存会
富山県	栴山獅子舞保存会	高知県	東洋町流鏑馬保存協議会	宮城県	大曲法印神楽保存会

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5)

\* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成21年度助成(続き)	
栃木県	鹿島神社郷土芸能保存会	熊本県	栖本町郷土芸能保存会	石川県	門前とどろ保存会
群馬県	天命鑄物伝承保存会*	大分県	新町自治会	長野県	町区太々神楽実行委員会
埼玉県	白瀧神社太々神楽保存会	宮崎県	高木郷土芸能保存会		高岡道祖神日待占祭保存会
千葉県	下小坂獅子舞保存会		都城市高城町桜木あげ馬保存会	静岡県	笹間神楽保存会
東京都	飯岡ばやし 日の出会	沖縄県	鳩間民俗芸能保存会	愛知県	日下部太鼓保存会
新潟県	大谷地和紙保存会*	平成23年度助成(42)		三重県	大江羯鼓踊保存会
	蔵王稚児舞の会	北海道	糠内獅子舞保存会	滋賀県	中堀町自治会孔明祈水山保存会
富山県	加茂神社神事伝承会	青森県	同心町熊野神社神楽連	京都府	質美下村区文化財保存委員会
石川県	向粟崎悪魔払い保存会	岩手県	外山神楽保存会	兵庫県	日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会
福井県	多賀区獅子保存会	宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会		福住下自治会
山梨県	中之倉神楽保存会	秋田県	福嶋サイサイ獅子保存会	奈良県	八島町六斎念仏講
長野県	湯原神社式三番保存会	山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	和歌山	南道奴行列保存会
岐阜県	河鹿神社賀喜踊保存会	福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	鳥取県	江波三番曳保存会
愛知県	万足平を考える会*	群馬県	美茂呂町屋台獅子保存会	島根県	八神楽団
	村木神社おまんこと祭り保存会	埼玉県	白久串人形芝居保存会		亀山将氏(足踏み水車の修復)*
三重県	戸木東組かんこ踊り保存会	東京都	旅名自治会	岡山県	宇甘神社獅子舞保存会
滋賀県	小野町太鼓踊保存会		鹿島流獅子舞引田保存会	広島県	富士神楽団
大阪府	深江菅細工保存会*		諏訪神社崇敬会	徳島県	赤松煙火保存会*
兵庫県	西町獅子舞保存会	神奈川	川名屋台ばやし保存会	香川県	和田雨乞踊保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会	新潟県	天神林天満宮伶人会	福岡県	上久原白山宮獅子舞保存会
和歌山	堅田祭保存会	富山県	田島自治会	佐賀県	自然と暮らしを考える研究会*
岡山県	大浦神社	福井県	宇波西神社神事芸能保存会	長崎県	権常寺浮立保存会
広島県	御調八幡宮花の踊り保存会	山梨県	山梨岡神社獅子	熊本県	竹迫観音祭保存会
山口県	上野神楽舞保存会	長野県	NPO法人小谷山村留学育成会*		黒辺田野白太鼓踊保存会
徳島県	森藤獅子舞保存会	岐阜県	小野八幡神社祭礼運営委員会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
香川県	安田おどり保存会	静岡県	東光寺猿舞保存会	沖縄県	黒島民俗芸能保存会
愛媛県	井原圭子氏(和紙用糞製作)*	愛知県	中之切奉賛会	平成22年度助成(42)	
高知県	泉川長者花鳥踊り保存会	三重県	立神自治会	青森県	二ツ森神楽芸能保存会
福岡県	植木の三申踊保存会	京都府	周枳民芸保存会三番曳組	岩手県	門中組振興会
佐賀県	島海浮立保存会	大阪府	野崎第一地車保存会	宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*
長崎県	森山本村郷土芸能保存会	兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会	秋田県	冬師番楽保存会
熊本県	東浦白太鼓踊り保存会	奈良県	神波大神社獅子神楽保存会	山形県	西袋獅子踊保存会
大分県	北原人形芝居保存会	島根県	出雲國奏楽錬成会	福島県	菅波伝統文化継承会
宮崎県	不土野芸能保存会	広島県	大朝飾り牛保存会	茨城県	あおき獅子連
鹿児島	土踊保存会	山口県	お手廻り保存会	栃木県	河井獅子舞保存会
	童子八月踊り研究会	徳島県	大谷郷土文化保存会	群馬県	木崎音頭保存会
沖縄県	豊見城市 高安自治会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会	埼玉県	三若会
平成25年度助成(42)		愛媛県	佐方獅子保存会		柏合獅子舞保存会
青森県	上川目神楽保存会	高知県	大利太刀踊保存会	千葉県	熊野神社神楽保存会
岩手県	大石虎舞組	福岡県	ぜんでこ踊り保存会		上本郷獅子講中
	二子築館神楽保存会		平八月祭り保存会	東京都	檜立踊り保存会
宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	佐賀県	南片白区浮立保存会	新潟県	川根谷内獅子保存会
秋田県	釜ヶ台番楽保存会	長崎県	馬場本浮立保存会	富山県	福島青年親交会
山形県	中獅子踊り保存会	熊本県	小屋川内獅子舞保存会	石川県	小松尾小屋鷹保存会
福島県	和田神社太々神楽保存会	大分県	重岡若戸神楽保存会	長野県	玉依比賣命神社
茨城県	久保田のおはやし保存会	宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会	岐阜県	加納まちづくり会(和傘製作)*
栃木県	万町一丁目東自治会	鹿児島	西上太鼓踊り保存会	静岡県	巖室神社鎮火祭保存会
群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	沖縄県	伊平屋村青年団協議会	愛知県	有松天満社文楽講
埼玉県	北本宿獅子連	平成24年度助成(54)		三重県	牛蒡祭保存会
	神明社神楽保存会	青森県	五戸えんぶり組	滋賀県	志賀神社氏子総代
千葉県	関下獅子	岩手県	門中組振興会	大阪府	三ツ松明土行念仏保存会
東京都	檜原村春日神社御餉神事保存会		片岸虎舞保存会	兵庫県	北野まつり保存会
新潟県	長沢祭典実行委員会		山岸さんさ踊り保存会	奈良県	惣谷狂言保存会
富山県	打出青壮年部	宮城県	小室契約会	鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会
石川県	串町町内会		浪板虎舞保存会	島根県	御霊会風流保存会
福井県	闇見神社例祭神事保存会		磯草虎舞保存会	岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室
山梨県	新町お獅子保存会		大谷大漁唄い込み保存会	広島県	おおたけ手すきと紙保存会*
岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*		長塩谷南部神楽保存会	山口県	山代白羽神楽保存会
愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会		大室南部神楽保存会	徳島県	橘だんじり祭り獅子組
三重県	東玉垣唐人踊り保存会		相川南部神楽保存会	愛媛県	北方獅子舞保存会
滋賀県	鍋冠祭保存会	秋田県	有限会社仙台堆朱製作所*	高知県	シットロ踊り保存会
大阪府	御領地車保存会	山形県	秋田万歳保存会	福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会
兵庫県	羽淵獅子舞保存会	福島県	大谷神楽保存会	佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会
奈良県	吐山太鼓踊り保存会	福島県	川原田神楽保存会	長崎県	平島盆踊り保存会
			新館太々神楽保存会		

平成3年～27年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6)

\*印は民俗技術

助成先		助成先	
平成27年度助成(44)		平成25年度助成(続き)	
北海道	遠矢神楽舞保存会	和歌山	三船踊り保存会
青森県	甲地神楽保存会	島根県	美保神社神事奉賛会
岩手県	小通芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会
	槻沢芸能保存会	広島県	錦城神楽団
宮城県	三輪流神楽保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会
秋田県	坂之下番楽保存会	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会
山形県	綱木獅子踊り保存会	愛媛県	金栄会
茨城県	古内大杉ばやし保存会	高知県	四ツ白武士踊り会
栃木県	天下一関白流西組獅子舞保存会	福岡県	安武楽保存会
埼玉県	久那獅子舞保存会		豊前小倉織研究会*
	金鑽神楽永田組	佐賀県	執行分浮立保存会
千葉県	浄土宗西福寺	長崎県	長崎明清楽保存会
東京都	大宮前郷土芸能保存会	熊本県	市房山神宮里宮神社
	多摩めかいの会*		長坂なれなれなすび踊り保存会
神奈川	根府川寺山神社鹿島踊保存会	宮崎県	中野神社神楽保存会
新潟県	昔かたり春よこい	鹿児島	黒潮太鼓
富山県	広野自治会		<b>平成26年度助成(44)</b>
石川県	神子原壮年団	北海道	美和権現獅子舞保存会
長野県	日和山神社芸能保存会	青森県	目名神楽会
岐阜県	綾野第三自治会小獅子軸保存会	岩手県	の組菱和会
愛知県	知立神楽保存会	宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)
三重県	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会	山形県	舟渡獅子踊り保存会
滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会	福島県	松岡若連
京都府	玉田神社宮座「森座」	栃木県	日光囃子保存会
大阪府	中垣内地車保存会	群馬県	津久田人形操作伝承委員会
兵庫県	土師獅子舞保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会
奈良県	篠原おどり保存会		赤沼民俗文化財保存会
和歌山	亀の川念仏踊り保存会		久長元耕地獅子舞保存会
鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	千葉県	道庭獅子連保存会
島根県	三谷神社獅子舞保存会	東京都	八幡囃子保存会
広島県	山根神楽団	神奈川	台祭囃子保存会
	おおたけ手すき和紙保存会*	新潟県	水沢伝統芸能保存会
山口県	切山歌舞伎保存会	富山県	加茂神社神事伝承会
徳島県	池谷郷土芸能保存会	石川県	内灘町宮坂区
愛媛県	井原 圭子氏*	福井県	鈴鹿区大太鼓保存会
福岡県	永井獅子保存会	山梨県	一之瀬高橋春駒保存会
佐賀県	浮立・荒踊り保存会	長野県	根神社式三番叟保存会
長崎県	命婦の舞保存会	岐阜県	綾野第4自治会綾野祭囃子軸保存会
熊本県	仲町の茶わん鉢保存会	愛知県	上名和祭りばやし保存会
	宇土市轟泉簡易水道組合*		東大高祭禮保存会
大分県	堅浦古典芸能保存会	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会
宮崎県	神下俵踊り保存会	京都府	出雲風流花踊り保存会
鹿児島	目手久民謡保存会		NPO法人丹波漆*
沖縄県	仲西獅子舞保存会	大阪府	延喜式内社 岐尼神社
<b>累計助成件数1,051件</b>		和歌山	池田 秀孝氏*
		鳥取県	服部神社獅子舞保存会
		島根県	玉造調理師会
		広島県	山波神楽団
		山口県	住吉神社お船謡保存会
		徳島県	鳴門大風保存会
		香川県	石切唄保存会
		愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会
		高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会
		福岡県	柳川市立柳河小学校 →特別クラブ「子どもどろつくどん」
		佐賀県	川上鉦浮立保存会
		長崎県	東上面浮立保存会
		熊本県	熊本新町獅子保存会
		宮崎県	細江神楽保存会
			風田製糖組合*
		鹿児島	花尾太鼓踊り保存会
		沖縄県	勢理客区

## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:大島雄次)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

財団の概要

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億2,000万円
事業内容	・ 音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・ 民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・ 芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・ 海外における音楽研修に対する助成 ・ 国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・ 地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・ 地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(平成27年11月現在) ・ 音楽分野 458人 84,180万円 ・ 伝統文化分野 1,051件 55,547万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社